

14. 他国での原発依存度は？

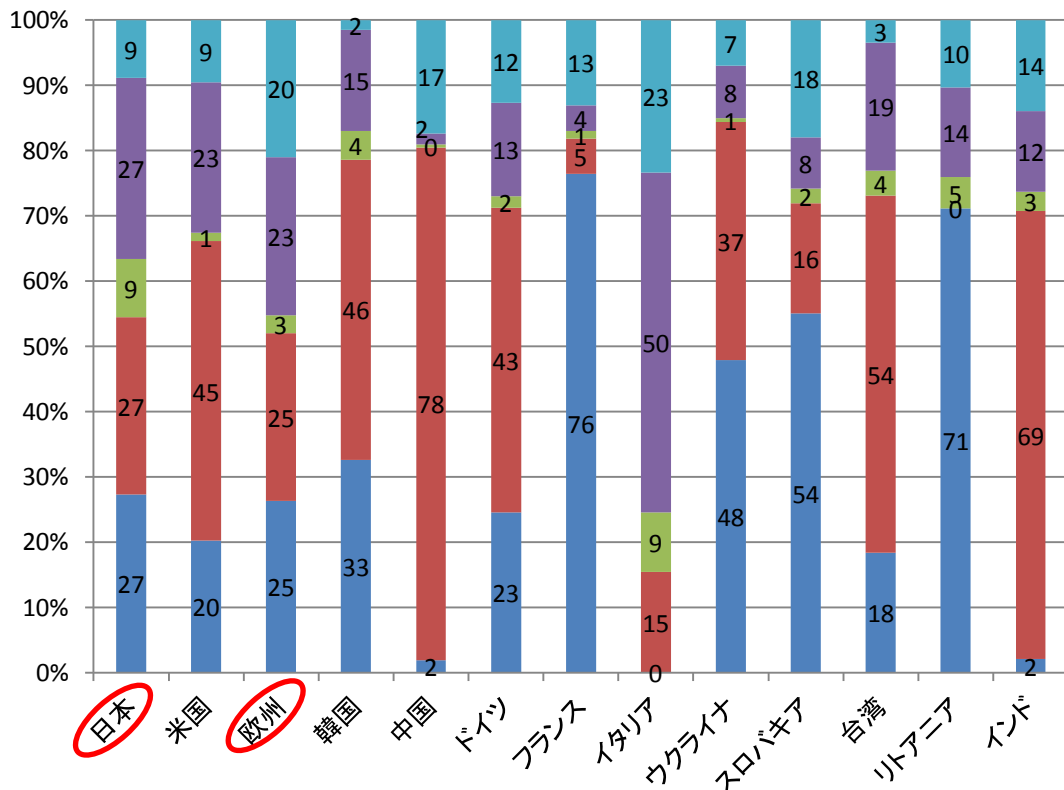
- 主要国では、米国は20%、欧州全体で25%（その中で英国18%、仏国76%、ドイツ23%、イタリア0%）、中国で2%、韓国で33%となっています（2009年実績）。
- エネルギー自給率の低い国や地域、供給リスクの高い国、エネルギー需要の急増が見込まれる国は、原子力を戦略上重要なオプションと位置づける国が多いようです。

各国の電力構成

- 各国は、供給安定性・環境適合性・経済効率性を考慮して、戦略的にエネルギー政策を展開。
- 欧州各国のエネルギーミックスは国毎に差異があるが、電力・ガス管網で相互につながっているため、欧州全体のエネルギーミックスに着目する必要。(欧州全体の電源別供給構成は日本とほぼ同様)
- エネルギー自給率の低い国や地域、供給リスクの高い国(東欧諸国)、エネルギー需要の急増が見込まれる国(中・印)は、原子力を戦略上重要なオプションと位置づけ。

各地域における電源別電力供給構成の比較

■ 原子力 ■ 石炭 ■ 石油 ■ 天然ガス ■ 再生可能エネ他



出典: IEA 「Electricity Information 2011」、2009年実績

エネルギー自給率と原子力発電比率

	日本	米国	欧州	韓国	中国	ドイツ	フランス
エネルギー自給率 (%)	4	68	46	3	92	29	9
原子力発電比率 (%)	27	20	25	33	2	23	76

	イタリア	ウクライナ	スロバキア	台湾	インド	リトアニア
エネルギー自給率 (%)	16	48	13	2	74	16
原子力発電比率 (%)	0	48	54	18	2	71

※エネルギー自給率については原子力を除いた数字

出典: IEA 「Electricity Information 2011」, 「Energy Balances of OECD/Non-OECD Countries 2011」

供給リスクの高い国(東欧諸国)

リトアニア

「国内の電力需要の60%を他国に依存しているリトアニアの状況は、安全保障上の懸念であるのみならず経済収支にも不均衡をもたらしており、ピサギナス新原発計画はこれらの懸念を解消しリトアニアの競争力を強化するための最も経済的な手段である」(クピリウス首相、2011年)

エネルギー需要の急増が見込まれる国(中国、インド)

中国

29基(計約3005万kW)の新規建設を計画(原子力発電中長期発展観測(2007年)において、2020年までに4000万kWまで拡大する計画あり。)

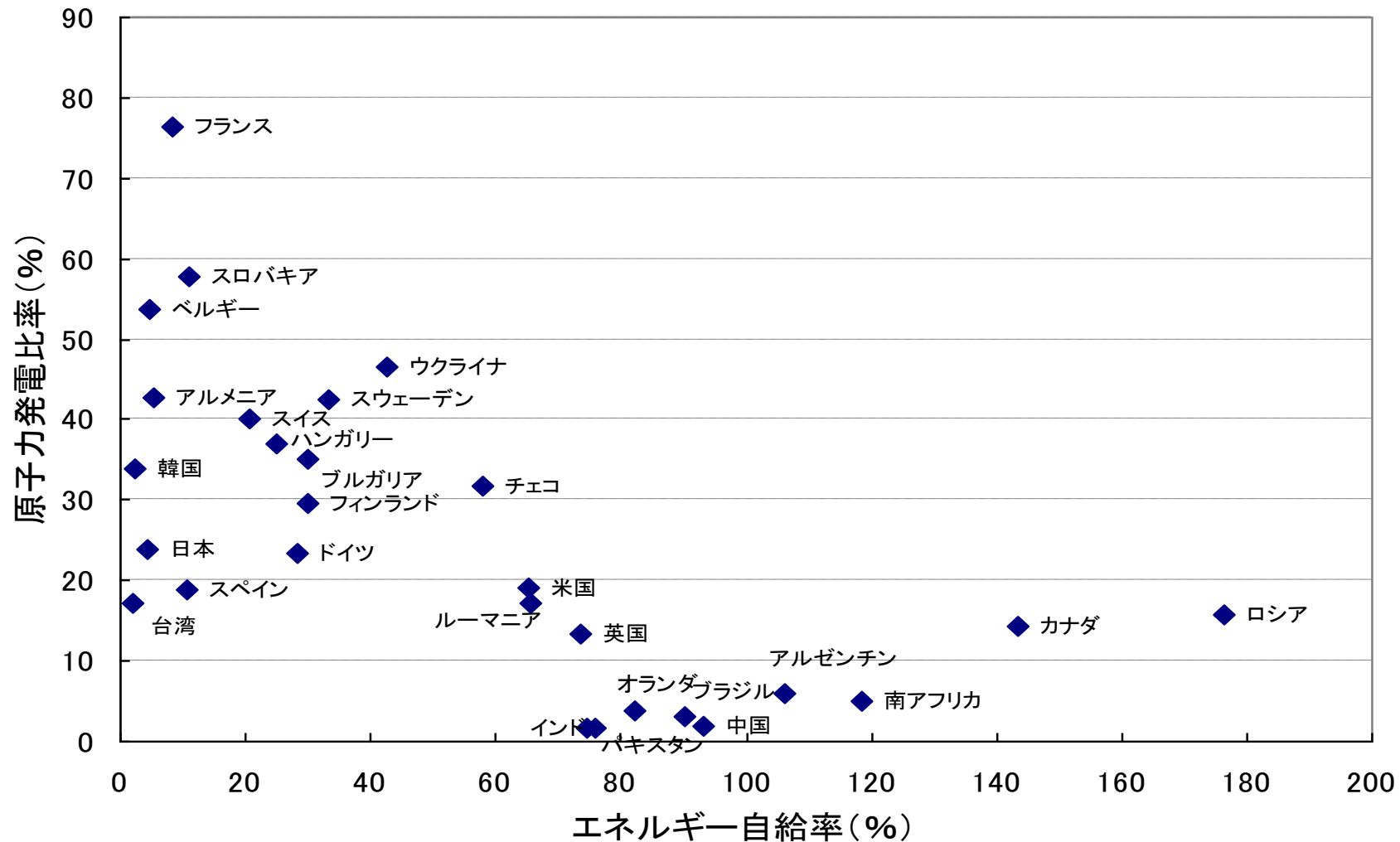
インド

第11次5カ年計画(2007年)において、2032年までに約6300万kWに拡大する計画あり

出典: 第9回 経済産業省 基本問題委員会

エネルギー自給率と原子力発電比率

○概ね、エネルギー自給率と原子力発電比率は、反比例の関係にある。



エネルギー自給率 = (原子力を除くエネルギー供給合計 / 一次エネルギー供給合計) × 100

出典: IEA Energy Balances of OECD and Non-OECD Countries 2008、

IEA Electricity/Heat in OECD and Non-OECD Countries 2008